



Le Journal de l' Etoile.

高1 学年ミサ

10月15日、一時間目が学年ミサでした。暁星では宗教行事として、全学年が一年に一回ミサを受けます。私はこのミサで聖書朗読を行いました。毎回のミサで神父様による聖書の解説やそれに関する話を聞くことは、私の楽しみの一つです。聖書自体は約二千年前に出来上がったものですが、その中には現代の私たち学ぶべきことがたくさんつまっています。

ところで、私はカトリック信者なので毎週日曜日に教会に通っています。そこでは私は広い視野に立って物事を考えることができます。なぜかという、長い歴史を持つ建物の中で心を落ち着け祈ることで、忙しい現代社会から一歩離れ、物事の本質を見直す機会になるからです。

学年ミサの日は中間試験の一週間前でした。私はミサを捧げることで、心を落ち着かせ気持ちを新たにして、試験に臨むことができました。私にとって“ミサ”とはそういう意味で特別な存在です。(高1M.O)

中3 研修旅行代替プログラム 前編

11月8日(1日目)

(1日目は映画「8時15分ヒロシマ父から娘へ」上映会・今作プロデューサー美甘さん講演会・世界平和記念聖堂とオンラインで祈りの集いの3つの行事を行いました。)

映画では美甘さんの父で被爆者である進示さんがその時目、耳、肌、心で感じた事がリアルに1秒1秒細かく描かれました。今まで文字や言葉、写真などでしか知らなかったあの時のヒロシマの事実をその場にいるかのように生々しく、そしてより深く知ることができました。

講演会では世界中の原爆や戦争に対する色々な角度の意見を、お互い否定し合うのではなく融合・調和・両立していくことが大切という、平和を実現するためのヒントを美甘さんからいただくことができました。

祈りの集いではオンラインで世界平和記念聖堂と繋ぎ、世界中から寄付されたモノが沢山あるこの聖堂に込められた平和を願う意志を知りました。そして原爆犠牲者の安らかな眠りと平和の実現を東京から強くお祈りしました。

11月9日(2日目)

(2日目は広島語り部の豊永さんと朴さんのお話をオンラインで聞きました。)

実際に原爆を体験した方達の言葉には重みがありました。特に印象に残ったのが原爆投下前と、投下後から今日に至るまでのお話です。お二人が口を揃えておっしゃっていたことは、戦時中に反米・反英教育が徹底されていたということです。そして投下後について豊永さんからは在外被爆者の補償の問題で国と裁判を何十年もしたこと、朴さんからは被曝によって早産してしまった自分の子供を ABCC(原爆傷害調査委員会)に連れて行かれてしまったことなどを教えていただきました。今まで知らなかった原爆投下前後の出来事を知り、戦争・原爆の使用を二度と繰り返してはならないという強い意志をしっかりと受け取ることができたと思います。今、被爆者の平均年齢は83歳を超え、実際に原爆のもたらす悲惨な現実を知る人が少なくなっています。だから僕達は聞いた話を受け止め、今度は自分たちが次の世代に伝えていかなければならないと感じました。

例年中3はこの時期に広島で平和学習を行っていますが、
今年は学校・関東近郊で平和学習を行いました。

